メーベ21が日本記録を更新

工研 空理航

約50キロの大飛行！

鳥人間 飛べず…悔しさを胸に

理工学部航空研究会（吉川晃生キャプテン＝航宇宙工4）は8・6日早朝、人力飛行機「Mowe（メーベ）21」で静岡・清原町の第十川滑空場から駿河湾に向けて、日本記録に挑んだ。昨年4月に1学年上の先輩チーム（谷中誠和キャプテン〈2005年理工卒〉）の「メーベ20」が達成した日本記録、約12㌔をはるかに上回る滞空時間1時間48分12秒、飛行距離49・1729㌔で日本新記録を樹立した。　東真一



駿河湾上を飛ぶメーベ21と記録会前日、アイロンを当ててフィルムを伸ばし、主翼の最終調整をしているメンバー（下）＝理工学部航空研究会提供

【1年が経過】

記録に挑んだのは、昨年の第28回鳥人間コンテストで優勝候補の本命に挙げられながらも、台風のため大会中止となった4年生チーム12人。例年は3年生のときの同大会が引退試合となるが、不完全燃焼の思いと悔しさを記録会にぶつけるため、研究室に残り、活動の傍ら機体の増加試作を続けた。

昨年完成した機体は試験飛行以外で飛べないまま、1年が経過していた。

公認記録飛行は多方面へ

の許可と、日本航空協会の飛行規程に基づいた厳密な書類が必要だったため、そ

【悲願の初飛行】

記録飛行期間は予備日を含めて6日間用意。昨年挑戦した先輩のメーベ20が2日間だったことに比べて、期日面での前進はほぼなかった。加えて「気象条件のよい8月、よっぽどのことがない限り記録は更新できる」と吉川キャプテンも自信を持って臨んだ。記録会初日、彼は穏やかで「風が弱い」との気象会社からの予報を受けて挑戦を決意した。

午前5時22分、毎秒約1・2㍍の追い風の中、機体は滑走路をぐんぐん加速、プロペラは次第に強く音を立てて回り、機体は風を切るように離陸した。増田良介機長（航宇宙工4）は「行ってこい」の声援を背に、ペダルに力強く踏み込んだ。

「増田頑張れ！」

「部員からの声が聞こえる」「つの夢がかなった瞬間だった。

【日本新記録誕生】

メーベ21は平均時速約27㌔という驚異的なスピードで、30分もたたないうちに日本記録を更新した。メーベ20の平均時速が約15㌔だったことから、どれだけ速かったのかが分かる。機体は駿河湾を南下し約30㌔地点まで到達。海は厳しい向かい風に変わり、飛行速度は減速したが機体は順調に距離を伸ばした。午前7時11分、出発地点から約50㌔離れた波勝崎沖に着水。

「一生ものだね」。

増田のこの言葉が印象的です。まさかここまで飛べるとは思ってもみませんでした。自分たちの手でここまで来て悔いはありません」。吉川キャプテンの心には、メーベ21がいつも羽ばたいている。